

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	文化・スポーツ振興課
会議名 (審議会等名)	令和7年度 第3回文化振興審議会		
開催日時	令和7年9月17日(水) 10:00~12:00		
開催場所	塩田公民館 視聴覚室		
会議の公開の可否	☑ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員	杉谷委員、秋吉委員、森委員、松本委員、筒井委員、井上委員、東島委員	
	事務局	文化・スポーツ振興課長、副課長、主事 各1名	
	その他	【受託業者】 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 トータルアドバイザー、まちづくりプランナー 各1名	
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	・ 会議資料・ワークショップ資料		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	文化・スポーツ振興
議 題	嬉野市文化振興計画について		
内 容	第2期基本理念、基本方針の決定について		
審議経過	事務局	基本理念について、前回の審議会内容を踏まえ、「文化を楽しみ 心豊かに暮らせるまち」はどうか。	
	委員	異議なし。	
	事務局	基本方針については、「知る 触れる つなげる」はどうか。	
	委員	異議なし。	
内容	第2期計画での基本施策、取り組み事項の検討について		
審議経過	事務局	第2期計画での基本施策、取り組み事項の検討について協議していきたい。	
	委員	嬉野市にどのような文化があるかということを知らない。嬉野の文化ということで何かあるわけではなく、個別的なものがある。	
	委員	基本的には合併によって嬉野市となっており、そもそも嬉野と塩田の文化や生活圏が全然違っている。塩田に住む人は、嬉野地区の伝統芸能などについて全然知らない。	
	委員	民生委員の立場から見ると、合併しても塩田民児協と嬉野民児協は別々に存在している。懇親会が年に一回あるだけで、交流がないため嬉野地区のことがよく分からない。	

委員	文化連盟においても塩田支部と嬉野支部が分かれており、予算も分けられている。講演会は2年に一回交互に開催している程度。組織が大きくなるよりも、現状のままで仲良くやれる方がよいという雰囲気となっている。ただし、少子化や人口減少により、今後10～15年で状況は変わるかもしれない。
委員	1市2町が続いている印象がある。嬉野市郷土史研究会においても、嬉野の人は少なく、圧倒的に塩田の人が多い。
委員	やはり文化的な背景が違う。塩田には文化的な資源が多くある。お寺や長崎街道など歴史的なものが残っている。
委員	合併したからといって一緒にすればよいというわけではなく、一緒にできないから各団体が今までどおりの名称で活動した方が都合がよいという状況だ。
委員	文化連盟に加入して初めて、様々な団体があることを知った。
委員	特に女性は嫁いでくるため、地域のことをあまり知らない。男性の方が育った地域のことに詳しい。子どもが学校に行って初めて、様々な地区の方と顔を合わせる機会ができる。
委員	知るとか触れるということでは、やはり実体験が重要だと思う。
委員	基本方針に沿って、文化に知る・触れる・つなげるための環境づくりをどうするかを考えるべき。
委員	市民が知りたい・触れたい・つなげたいと思ったときに、それが簡単にできるような環境づくりが重要だ。
委員	アンケートの位置づけを確認したい。
事務局	今日の議論を踏まえて、11月に予定している協議の前にアンケートを実施し、計画書の原案を作成する予定だ。
受託業者	アンケートの位置づけとしては、指標を取るための手段として考えている。そのため、アンケートをブラッシュアップに使うということは考えていない。

委員	隣町の文化を知らなかった理由として、交流の機会が少なかったことがある。最近嬉野の踊りなどが盛んになってきている。また、神社仏閣の役割が変わり、お祭りなどの文化的行事が減少している。伝統文化の継続が難しくなっている。
委員	庁舎の跡地利用について、公民館の建物が耐震構造ではないため取り壊す予定だが、みんなが集まって話し合う場や練習場がなくなる問題がある。自由に使いやすい施設を作らないと文化の活性化ができない。特に20代～40代の若い世代が集まれる場所が必要だ。
委員	介護保険の補助事業で居場所づくりをした経験がある。高齢者が立ち寄りやすい場所を作ることが重要だと思う。
委員	地区の公民館建設も10年前から言っているが、補助金がおりにない状況。集まれる場所が必要だ。
委員	旧嬉野町と塩田町の合併から20年経つが、歴史文化の違いがある。今後は広報活動を強化し、両方が一緒になって新しい文化を作っていく必要がある。ケーブルテレビも地区によって異なるため、情報共有が難しい。また、伝統芸能の継承も人手不足で難しくなっており、できることとできないことを見極める必要がある。また、方言も大事な文化として保存すべきだと考えている。
委員	方言ということで関連して言うと、幼稚園で園児に向けて話したとき、方言を使ったら先生に注意された経験がある。
委員	文化協会では今年初めて嬉野の吹奏楽を無料で招き、キッズダンスも来年から招く予定だ。徐々に交流を深めていきたい。
委員	文化は国境も越えるので、まずは塩田と嬉野の壁を越えるべき。ケーブルテレビの問題も融合させるべきではないか。
委員	レトロカーのイベントは、どのように行われているのか。
委員	レトロカーのイベントについて、古い町並みと古い車が合うという理由で開催している。過去には商工会青年部が中心となって実施したが継続できなかった。現在は有志が集まって「勝手に旧カー」という名称で開催している。

委員	<p>2019年に入庁した際、文化財に関する情報発信がうまくできていなかった。Twitterよりもマスメディアへのプレスリリースの方が効果的だと感じた。特に塩田地区に特化して情報発信を行ってきた。ただし、文化財の場所を無闇に公開すると盗難の危険もあるため、必要に応じた情報発信が重要だと考えている。</p>
委員	<p>人口減少により、伝統行事の継続が難しくなっている。浮立の担い手も不足している。女性が担ぐなど形を変えながら継続している。集落の文化行事における一体化や子どもたちへの継承が必要だ。</p> <p>委員 いくつかの地区が協働し、集約してやらないと残っていかないと 思う。</p>
委員	<p>隣の集落でも鉦の音が微妙に違う。長い歴史の中で違いが生まれている。2つの地区が一緒になるのは難しいが、残すために努力が必要。ある地区では複数の集落が一緒に練習したが、基本は同じでも細部が違う。今後は複数の集落が一緒になってどちらかに合わせるようなことも必要かもしれない。</p>
委員	<p>実際には、よその集落の人が手伝うようになっている。また、祭りは神事なのでこれまで女性を禁忌していたが、女性も入ってもらわないといけない状況になっている。</p>
委員	<p>例大祭では人数が足りないため、他地区からの応援が必要となっている。広報活動を通じて協力を呼びかけるべきではないか。自然淘汰的にうまくいくところを支援していくのがよい。</p>
委員	<p>森政洋氏の業績を継承する取り組みが必要。塩田の生まれなのに、波佐見のほうに取られてしまった。嬉野にも常設の展示会などがあるとよい。</p>
委員	<p>著作権や相続の問題があり、権利が別の方に移っているため難しい状況となっている。森さんの家のギャラリーは残っているが、相続された方が東京にいるため動けない状況になっている。</p>
委員	<p>嬉野・塩田の美術の常設展示館があるとよい。また、資料館にあるもので定期的に展示会を開くとよい。</p>
委員	<p>売茶翁など縁のある人もいる。埋もれた芸術家が多くいる。また、隠れキリシタンの跡地もある。</p>

	<p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>庁舎利用の際に、文化財のスペースが必要だと主張すべき。言わないと全部なくなってしまう。志田焼の資料館にも新作品が多く残っているが、スペースが狭い。まずは文化資源の存在を知ってもらうことが大事である。</p> <p>塩田と嬉野の融合をどう図るかが課題だと感じた。新しく文化を作っていくためには、自由に使いやすい公共施設が重要だと思う。また、広報活動や情報発信も重要で、対象に合った形で情報が届くようにする必要がある。物理的な空間の交流や世代間のつながりも必要。行政としては、人々が集まる場所の提供を重要な事項として認識し、重要視していきたい。</p>
<p>その他</p>		